

## 平成29年度一橋大学附属図書館研究開発室活動報告

## 1. 一橋大学附属図書館研究開発室 室員名簿

	氏名	在任期間	所属	専門領域
室長	山部俊文	2014.12～ 2018.3	附属図書館長、社会科学古典資料センター長、法学研究科教授	社会法学、 民事法学
室員	馬場幸栄	2017.9～ 2018.3	附属図書館助教	書物史、文化資源学、 比較文化
室員	床井啓太郎	2012.4～ 2017.9	社会科学古典資料センター専門助手	西洋近世史、 書誌学
室員	福島知己	2012.4～ 2018.3	社会科学古典資料センター専門助手	西洋思想史

## 2. 一橋大学附属図書館研究開発室 活動一覧

## 2.1 企画実施

- 企画展示「批判・反骨・ユーモア：新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界」  
於図書館展示室、2017年11月1日～11月30日。
- 講演会「新聞・雑誌漫画にみる批判・反骨・ユーモア：近現代日本の諷刺画を手掛かりに」（茨木正治東京情報大学教授）於図書館会議室、2017年11月17日。

## 2.2 資料整理および公開

- 研究者手稿類アーカイブの追加（左右田喜一郎・杉村広蔵関係資料）

## 2.3 学内教育活動

- 学芸員資格科目「博物館資料保存論」「博物館教育論」各1回
- 大学院新入生ガイダンス「剽窃防止ガイダンス」
- 図書館ガイダンス「レポートの書き方ワークショップ」

## 2.4 その他

- 福田徳三研究会事務局

## 3. 一橋大学附属図書館研究開発室員 活動一覧

床井啓太郎専門助手

(1) 執筆

「西洋古典資料の保存」『大学図書館研究』No. 106、36-43頁、2017年5月。

「西洋古典資料の媒体変換と原資料の保存」『月刊IM』2017年7月号、4-7頁、2017年6月。

(2) 発表・報告・講師

「レポートの書き方」、一橋大学附属図書館「レポートの書き方」ワークショップ、於一橋大学図書館会議室、2017年5月17日。

「西洋古典資料の媒体変換と原資料の保存について」、第11回資料保存シンポジウム（情報保存研究会）、於一橋大学一橋講堂、2017年10月10日。

「西洋古典資料の目録作成」、第37回西洋社会科学古典資料講習会、於一橋大学附属図書館会議室、2017年10月25日。

【非常勤講師】

大東文化大学文学部「情報資源組織演習A」「情報サービス演習2」担当

高崎経済大学経済学部「日本語リテラシーI」

(3) 視察・調査・研修

国立科学博物館筑波研究施設において資料調査、2017年6月14日、8月24日。

小樽市総合博物館において資料調査、2017年6月27日～29日。

(4) その他

日本学術振興会平成29年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業「本を残す 本を伝える～書籍の保存と修復」実施分担者、2017年7月17日。

福島知己専門助手

(1) 論文等

福島知己「R.A. Sayce「1530年-1800年に印刷された本の植字慣行と印刷地の特定」の検討

(4)」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』38号、60-84頁、2018年3月。

江夏由樹・福島知己・床井啓太郎「科学研究費補助金【(基盤研究(C))】「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」中間報告(1)」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』38号、41-46頁、2018年3月。

(翻訳) フレデリック・ジュショー、フィリップ・ボンネンベルジェ、アレクシス・コマ

ンダ(福島知己訳)「装幀用の革とパーチメントの動物種の特定」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』38号、47-59頁、2018年3月。

(2) 発表・報告・講師

「剽窃防止ガイドンス」、於一橋大学兼松講堂、2017年4月2日。

「目録作成実習」、第37回西洋社会科学古典資料講習会、於一橋大学附属図書館会議室、2017年10月27日。

『『産業の新世界』の成立と構成』、シャルル・フーリエ研究集会「Fourier! Fourier! Deux journées avec Fourier」のための報告、於一橋大学附属図書館会議室、2018年3月27日。

(3) 視察・調査・研修

慶應義塾大学三田メディアセンター調査視察、2017年6月22日。

(4) その他

JSPS 科研費 J150100071 研究代表者。

JSPS 科研費 15K02950、17K00465 研究分担者。

福田徳三研究会事務局。

西洋史学会大会記念一橋大学社会科学古典資料センター特別展示「『ヴァイステューマー』と19世紀ドイツのゲルマニストたち」アレンジメント、一橋大学社会科学古典資料センター1F展示コーナー、2017年5月20日、21日。

「博物館資料保存論」(一橋大学大学院言語社会研究科 筒井弥生先生) 社会科学古典資料センター見学実習担当、2017年6月16日。

日本学術振興会平成28年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業「本を残す 本を伝える～古典資料の保存と活用」(実施代表者: 屋敷二郎・社会科学古典資料センター教授) 実施分担者、2017年7月17日。

一橋大学社会科学古典資料センター主催第37回西洋社会科学古典資料講習会を企画準備運営、2017年10月25日～27日。

社会思想史学会参加、於京都大学、2017年11月4日・5日。

第19回図書館総合展、於パシフィコ横浜、2017年11月7日～9日、ポスターセッション作成分担。

一橋大学附属図書館・社会科学古典資料センター主催 平成29年度文化的・学術的資料の保存シンポジウム「本の分析学②本の革」を企画準備運営、2017年12月22日。

シャルル・フーリエ研究集会「Fourier! Fourier! Deux journées avec Fourier」を企画準備運営、  
於一橋大学附属図書館会議室、2018年3月27日・28日。

福田徳三研究会編『福田徳三著作集第19巻 厚生経済研究』信山社、2017年7月、編集  
協力者。

福田徳三研究会編『福田徳三著作集第1巻 経済学講義』信山社、2017年10月、編集協  
力者。

#### 4. 関連規則・規程

- 一橋大学附属図書館研究開発室規則

平成24年3月7日

規則第31号

(趣旨)

第1条 この規則は、一橋大学附属図書館規則（平成16年規則第178号）第5条第2項の規定に基づき、一橋大学附属図書館研究開発室（以下「研究開発室」という。）の組織及び業務等について必要な事項を定める。

(業務)

第2条 研究開発室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 電子情報及び紙媒体の資料の収集及び保存並びに利用者へのサービス提供等に関する調査研究
- 二 歴史的資料の保存及び公開に関する調査研究
- 三 附属図書館の情報発信の機能強化に関する調査研究
- 四 高度な専門知識を有する図書館職員の養成
- 五 その他図書館機能の強化に関する調査研究

(組織)

第3条 研究開発室は、室長及び室員をもって組織する。

- 2 室長は、附属図書館長をもって充てる。
- 3 室長は、研究開発室の業務を掌理する。
- 4 室員は、室長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 5 室員は、研究開発室の業務に従事する。

(室員以外の協力者)

第4条 室長は、研究開発室の業務を推進するため、一橋大学教職員又は学外の有識者に協力を依頼することができる。

(事務)

第5条 研究開発室の事務は、学術・図書部学術情報課が行う。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

● 一橋大学附属図書館研究開発室年報 編集規程

平成24年11月16日

附属図書館長決裁

(目的)

1. 一橋大学附属図書館研究開発室年報(以下「本誌」という。)は、一橋大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の年間の活動及び研究成果を公表することを主たる目的とし、併せて本学の図書館活動に関わる事業・調査・研究報告を掲載することとする。

(編集委員会)

2. 編集委員会を研究開発室内に設置する。編集委員会は、研究開発室長、研究開発室専任室員、学術・図書部長及び学術・図書部学術情報課長から構成し、本誌編集に関する業務を管掌する。

(校正)

3. 初校正及び再校正は、著者の責任で行う。

(著作権)

4. 本誌に掲載された著作物の著作権は著者に帰属する。ただし著者は、本誌を印刷物として発行すること、電子化しインターネットを通じて公開することを許諾する。

● 一橋大学附属図書館研究開発室年報 投稿規程

平成24年11月16日

附属図書館長決裁

1. 本誌の編集目的と合致する未発表原稿を、電子ファイルの状態で本学附属図書館研究開発室に投稿する。
2. 受理する電子ファイルは、プレーンテキストないし Microsoft Word 形式に限る。

3. 原稿には下記項目を記した投稿票を添付する。同票の形式は自由とし、電子メールで投稿する場合はメール本文に記すのも可とする。原稿が論文の場合は(1)～(6)、報告の場合は(1)～(4)を必須記入事項とする。なお、共著の場合は、著者と所属の対応関係が分かるように記すこと。
  - (1) 原稿の種類：報告／論文
  - (2) タイトル（日本語、英語）
  - (3) 著者名（日本語表記、アルファベット表記）
  - (4) 所属（日本語、英語）
  - (5) 要旨（日本語で250字以内、およびその英訳）
  - (6) キーワード（5点程度、日本語および英語）
4. 原稿は1段組みの横書きとし、1頁あたり40文字、30行で作成する。
5. 原稿は本文及び図表・図版、文末脚注を含め、20頁以内とする。
6. 句読点は「、」「。」を使用し、英数字は半角、その他は全角で入力する。
7. 文献の書誌事項は、科学技術情報流通技術基準 SIST 02-2007「参考文献の書き方」に準拠する。  
その他不明な点があれば、本誌編集委員会に照会する。